

2021年度全国マンツーマンディレクター会議

公益財団法人日本バスケットボール協会
ユース育成部会・マンツーマン推進プロジェクト
牧野広良

マンツーマン推進・コミッショナー対応について

1. マンツーマンの必要性

(1)なぜマンツーマンが必要か？

マンツーマン推進プロジェクト 2018. 4月リーフレット参照

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/U15mandf_Leaflet_20180401.pdf

2. マンツーマンディフェンスの基準規則のポイント

＝第1節 基準規則＝

(1)マンツーマンディフェンスをしていることが分かる現象の理解

①アイコンタクトや言葉のサイン

②指差しなどの手のサイン

③ボールやオフェンス側プレーヤーの移動に合わせての位置の移動

(2)上記の現象を明確にプレーヤーが表現し、それをコミッショナーが理解すること

(3)ディフェンスのスタート

①チームとして付き始めたエリアから

②マッチアップエリアから

上記のいずれか先におきた事象から基準規則の関与となる。

(4)オフェンスをとらえる姿勢

ディフェンス側プレーヤーは、マークマンの動きに合わせて、常にマークマンが見えるか感じ取られる位置に移動する。

(5)ヘルプサイドディフェンス

ヘルプサイドのマークマンにマッチアップするディフェンス側プレーヤーは、片足または両足がヘルプサイドに触れていること。ただしヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

(6)トラップディフェンス

①定義:ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

⇒両者(複数人すべて)トラップの状態になければならない。

②トラップの条件(U12のみ)

【オンボール】・・・以下のⅠ～Ⅲの条件のいずれかに合致していればトラップできる。U15は、オンボールであればトラップできる。

Ⅰ)ドリブルが行われているとき、またはドリブルが終わったとき。

Ⅱ)パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができるとき。

Ⅲ)自分のマークマンとボールをコントロールしているオフェンス側プレーヤーとの距離が2～3mで、移動が容易にできるとき。

【オフボール】・・・以下のⅠ以外にオフボールでのトラップはできない。(U12・U15)

Ⅰ)制限区域内において、予測に基づいて(オフェンス側プレーヤーの両足が制限区域外に触れているときは該当しない。)トラップすることはできる。

(7)プレスディフェンス

マッチアップの基準は採用される。(ゾーンディフェンス・コンビネーションディフェンスを行ってはいけない。)

＝第2節 処置と規則＝

(1)演習問題

・・・正しければ○を、間違えていれば×で正しい答えを【 】に記入しましょう。

① Aチーム 4 番が1Qにマンツーマンの警告を受けた。3Qで同じAチームの 5 番が、違う項目でマンツーマンの警告を受けた。警告の後、マンツーマンペナルティーの処置はせず、時計がとまったときがアウトオブバウンズだったので、そのスローインからゲームが再開された。

()・・・【 】

② プレーを理解していないと思われるAチームのプレーヤーが、自分のマークマンを意識することが少なかった。そこで黄色旗を上げた。その後そのまま5秒を経過しても赤旗にはしなかった。

()・・・【 】

③コミッショナーに対するコーチの暴言は、テクニカルファウルとなることはない。

()・・・【 】

④警告を行っているときに、Aチームのコーチから「Bチームの5番もゾーンをしている。」と言われた。まず、B手チームの5番のディフェンスについて説明してから、Aチームの警告を行った。

()・・・【 】

⑤Aチームに2度目の赤旗が上がり、その最中にAチームがボールをスティールしてドリブルを始めた。その瞬間に時計は止めたが、ブザーを押すことができずに、そのままプレーは流れ、Aチームがドリブルシュートをカウントした。審判の得点の合図とともにブザーをようやく鳴らすことができた。Aチームの得点を認め、Bチームのフリースローとボール保持からゲームを再開した。

()・・・【 】

＝第3節 マンツーマンコミッショナー＝

(1) 留意点

- ①技術不足による故意ではない違反行為が発生する可能性があるため、それをしっかりと見極めることが大切。
- ②コミッショナーの役割はマンツーマンディフェンスを普及・推進すること。違反が目立つ場合は、ピリオド間、ハーフタイムを活用し、コーチにしっかりと説明を行う。

(2) マッチアップの判定

オフボールディフェンスについて、手のサイン等があっても「明確に」という文言があてはまらない場合は、コミッショナーがマンツーマンをしていないと判断する場合がある。

(3) オフボールディフェンスの判定

- ①オフボールディフェンスのプレーヤーが、ボールとマークマンの位置を確認し、ディフェンスの位置を確定するために、首を振ってボールとマークマンを見ることは認められるが、全く移動せずに首だけを振って見ていることは、「ボールの位置と自分のマークマンの両方が見える位置を取る」という文言に反するため注意や警告の対象となる。
- ②2線(ワンパスアウェイ)と3線(ツーパスアウェイ)のディフェンスについて、オフボールディフェンスのプレーヤーとマークマンの距離の指定はないが、マッチアップが明確でない場合は注意や警告の対象となる。
- ③オフェンス側チームが1人のプレーヤーだけでオフェンスを行うことが明らかなき、オフボールのディフェンスプレーヤーは、マークマンを少しでも捉えていれば、常に移動していなくても、注意や警告の対象としない。

3. マンツーマン推進ケース動画・・・動画視聴にて研修

◆U12 マンツーマンコミッショナー対応事例

<https://youtu.be/xh2JpMFVVgw>

4. マンツーマン推進研修問題・・・活用方法について

◆別紙資料：2021_マンツーマンディフェンス推進問題&回答

5. 質疑応答

6. その他

◆連絡先：牧野広良

◆メールアドレス：5satsuyuushi5@jcom.home.ne.jp

◆電話番号：090-6946-4544